

はじめに

日本の自然公園における遷移途中にある自然環境を自然遺産として良好に維持・保全するための方策解明を目的として、2012年度にスタートしたプロジェクト研究「遷移途中にある自然環境を自然遺産として良好に保全するための研究モデルの策定—磐梯朝日国立公園の人間と自然環境系（生物多様性の保全）に関する研究—」（文部科学省特別経費（プロジェクト）採択事業、略称「磐梯朝日遷移プロジェクト」）も2年目を終えようとしています。裏磐梯地域の桧原湖、五色沼を含む湖沼群の水量、水質、地下水、積雪、水色に関する研究は、データの蓄積とともに解析結果を示せるようになってきました。河川、湖沼、湿地、森林における動植物や大腸菌群に関する研究も、それらの分布、生態、多様性に関するデータのさらなる蓄積が進みました。猪苗代地域では、猪苗代湖の湖底堆積物や湖周辺におけるボーリングで得られた試料から古環境変遷に関する多くの新知見が得られつつあります。本報告書は磐梯朝日遷移プロジェクトが2013年度に実施したこれらの研究の成果を取りまとめたもので、2012年度に引き続き「裏磐梯の湖沼環境を考える会議」の報告書も兼ねています。磐梯朝日遷移プロジェクト並びに裏磐梯の湖沼環境を考える会議の今後のさらなる発展のため、本報告書をご高覧頂き、忌憚のないご意見をお寄せ頂ければ幸いです。

2013年度も多数の大学院生や学類生がプロジェクトに参加し、フィールド、実験室、そして談話会（研究報告会）などで分野横断型の研究活動を経験し、鍛えられました。プロジェクトが推進する「実践的研究能力と包括的判断力を有する人材養成」は、軌道に乗ってきたものと思われまます。本報告書に掲載されている研究報告の半数以上が、プロジェクトに参加し、実践経験を積んでいる大学院生や学類生などの学生たちによって執筆されたものです。学生たちの研究活動の様子や研究成果は、プロジェクトのHP（<http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/bandai-asahi-project/>）を通じても発信していますので、そちらも是非ご覧ください。

今年度の後半、プロジェクトでは大きな事業実施と装置導入が実現しました。一つは裏磐梯地域と猪苗代地域の併せて3ヶ所に地下水観測孔を掘削・設置したことで、地下水位と水温の自動観測を開始しました。もう一つは安定同位体比質量分析装置（EA-IRMS）の導入で、この装置を駆使して食物網解析など、生態系における物質循環の動態を解析・把握しようと考えています。来年度はこれらの事業や装置による研究成果も発信できるものと思っています。

最後に、このプロジェクト研究を直接支援していただいている文部科学省をはじめ、環境省東北地方環境事務所、環境省裏磐梯自然保護官事務所、福島県、北塩原村、猪苗代町、郡山市、会津若松市などの関係機関や自治体の皆様、公益財団法人福島県保健衛生協会、裏磐梯ビジターセンター、株式会社ニチレイ、株式会社裏磐梯高原ホテル、津金産業有限会社の皆様、福島大学の関係各位に心から感謝申し上げます。来年度に予定しているプロジェクトや会議の活動へのご協力とご支援も引き続きよろしくお願い申し上げます。

2014年2月4日

磐梯朝日遷移プロジェクト 代表
塘 忠顕